

普及だより

海草振興局農林水産振興部
農業水産振興課
〒640-8585
和歌山市小松原通1丁目1番地
(県庁南別館6F)
TEL: 073-441-3378
FAX: 073-441-3476



平成28年度農家経営研修会(平成29年3月16日) 国際フルーツ協会代表 中野瑞樹氏の講演

皆様におかれましては、協同農業普及事業の推進に御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。既知の方も多いと思いますが、昨年11月に農林水産省から「農林水産業・地域の活力創造プラン」の改定が発表されました。平成25年策定時の「六次産業化の推進」、「中間管理機構の活用」など農業関係の5つのプランに「更なる農業の競争力強化のための改革」が追加された内容です。

この新たなプランを実現するため、13項目からなる「農業競争力強化プログラム」が策定されました。「生産資材価格の引下げ」、「農産物の流通・加工構造の改革」などへの取組が示されています。今後様々は施策等に関連してきますので、是非御一読してみてください。

直近で現場に影響する項目としては、本誌でも紹介している「収入保険制度の導入」です。平成31年1月から新たに始まる制度であり、まだ詳細未確定の部分もありますが、品目枠にとらわれず、これまでの農業共済のような自然災害による収量減少だけでなく、需給変動による価格低下なども含めた収入減少を補填する仕組みです。今後の発表に注目していきたいところです。

海草振興局では、昨年4月から農林水産振興部が新設され、農業水産振興課はこれまでの農業振興課の業務に水産業務を加えスタートしています。普及グループと総務・振興グループの2グループが設置され、現場課題に対応した普及活動に加え、補助金・制度資金の窓口等地域農業振興のための業務を行っております。また、市町(関連課)、JA等関係機関と連携をとり、農業者の皆様と直接話し合いながら活動していきたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

海草振興局農業水産振興課長

ショウガの新しい取り組み

和歌山市の新ショウガ生産で使われる種ショウガは、ほぼ全てを県外産に頼っている状況です。

近年では、種ショウガ産地で土壌病害が広がっていることや種ショウガ生産者の高齢化などが進んでおり、今後は種ショウガの入手が難しくなっていくことが想定されます。

このことから、平成27年3月に行政(和歌山市、和歌山県)とJA(わかやま農業協同組合、和歌山県農業協同組合連合会)によって「和歌山市種生姜生産促進協議会」が設立され、和歌山市内で種ショウガ生産を目指した囲いショウガの生産振興を図るべく取り組んでいます。



種ショウガ、囲いショウガの収穫調査

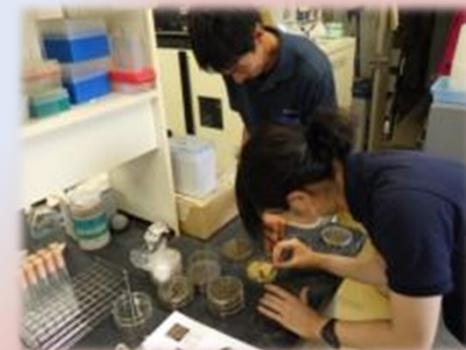
《 種ショウガ、囲いショウガの生産振興 》

和歌山市内の山間部や水田地帯において、種ショウガ、囲いショウガの試作生産者を募り、勉強会や栽培ほ場の巡回調査などを行いながら、和歌山市の各地区に応じた栽培管理方法などの検討を進めています。

《 栽培土壌のショウガ根茎腐敗病菌状況調査 》

JAわかやま、農業試験場と連携して、新ショウガの栽培ほ場から土壌をサンプリングし、ショウガ根茎腐敗病菌がどの程度ほ場に存在するか調査する手法を用いて栽培土壌の状況調査を行っています。

今後、調査を進めて、より防除効果の高い手法などについて検討を進めます。



栽培土壌中のショウガ根茎腐敗病菌を調査

果樹重要病害のまん延防止対策

《 キウイフルーツかきよう病 》

海南市では藤白地区や旧下津町を中心に古くからキウイフルーツ栽培が盛んです。近年、販売価格が比較的高く、安定していることから有望な品目です。

平成26年にこれまで国内で発生していたキウイフルーツかきよう病より病原性の高い系統のかきよう病(Psa3)が県内で発見されました。

Psa3は緑系品種より赤系・黄系品種に被害が大きく、ひどくなると枯死します。

春の症状は葉に不整形の褐色病斑が表れたり、花蕾の褐変や新梢の枯れ込み、樹液の漏出が見られます。

Psa3の発生を受け、平成27年度からJAながみね、関係市町、農業共済組合、県農及びかき・もも研究所と協力して、キウイフルーツかきよう病のまん延防止対策の確立に向けた取組を行っています。

管内の発生状況確認のために栽培園の調査を行い、縮伐、薬剤防除等の適切な処理の推進をしています。



キウイフルーツかきよう病 左：樹液漏出 右上：花蕾の褐変
(写真提供：かき・もも研究所) 右下：葉の褐色病斑

《 イチジク株枯病 》

和歌山市は、紀の川市に次ぐ県内第2位のイチジク産地ですが、近年、重要病害であるイチジク株枯病が広がっており、その対策に苦慮しております。株枯病によって枯死した場所に新苗を植え替えても成木になる前に枯死してしまうので、一度株枯病が発症すると安定的な生産が難しくなってしまうのが現状です。

海草振興局では平成27年度より、JAわかやま、かき・もも研究所と協力してイチジク株枯病防除対策の確立に向けて活動しています。本年度は、和歌山市山東地区の全イチジク園における株枯病発生状況調査、イチジク抵抗性台木「キバル」の生育調査、アキノキクイムシ防除対策などに取り組まれました。化学的な防除に頼らない総合的な防除方法の確立、普及を行います。



イチジク株枯病対策に関する研修会

農業経営全体をカバーする、国による新たな保険制度『収入保険制度』の導入が予定されています。

品目の枠にとらわれず、自然災害による収量減少だけでなく、価格低下なども含めた収入減少を補填する仕組みです。平成30年申込み、平成31年産からの制度運用開始を想定されており、主な内容は下記のとおりです。

(*掲載内容は平成29年2月末現在のもので、今後、変更される可能性があります。平成31年産から保険対象となるには、平成29年の確定申告を青色申告で行う必要があります。他の補償制度との併用は出来ません。)

本件に関するお問い合わせ先: 近畿農政局和歌山県拠点 073-426-3831

○ 青色申告を行っている農業者(個人・法人)が対象。

※ 5年以上の青色申告実績がある者が基本ですが、青色申告(簡易な方式を含む)の実績が1年分あれば加入可能。

○ 当年の収入が基準収入の9割(5年以上の青色申告実績がある場合)を下回った場合に、下回った額の9割(支払率)を補填。

※ 基準収入は、農業者ごとの過去5年間の農産物の販売収入の平均(5中5)を基本とし、規模拡大など当年の営農計画等も考慮して設定。

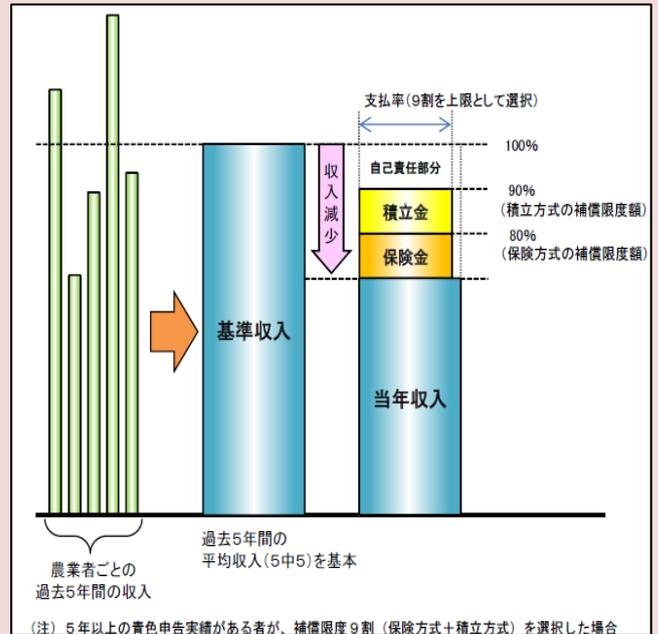
※ 補償限度額及び支払率は複数の割合から選択可能。

※ 「掛捨ての保険方式」に「掛捨てとならない積立方式」も組み合わせるかどうかは選択できる。

○ 農業者は保険料・積立金を支払って加入(任意加入)

※ 保険料は掛捨てになります。保険料率は、今後変更があり得ますが、現時点の試算(補償限度8割)では1%(50%の国庫補助後)です。

※ 積立金は自分のお金であり、補填に使われない限り翌年に持ち越しされる。75%の国庫補助がある。



(注) 5年以上の青色申告実績がある者が、補償限度9割(保険方式+積立方式)を選択した場合
基準収入が1,000万円の農業者が、補償限度9割(8割が保険方式+1割が積立方式)、支払率9割を選択した場合の試算

農業者が用意すべきお金		補填金額		
保険料は、7.2万円	積立金は、22.5万円	収入減少の程度(当年収入)	補填金の合計	補填金を含めた当年収入(対基準収入)
合計 29.7万円			保険金 積立金	
		30%(700万円)	180万円 90万円	90万円 880万円(88%)
		50%(500万円)	360万円 270万円	90万円 860万円(86%)
		100%(0万円)	810万円 720万円	90万円 810万円(81%)

農地の貸借は農地中間管理事業を是非、ご利用下さい。

農地を借りたい(貸したいでもOKです。)希望がございましたら、JA・市町(農業委員会)・振興局の担当部署に是非ご相談を。ご希望に沿う農地情報が入り次第、紹介させていただきます。

貸し手と借り手の間に県農業公社(農地中間管理機構)が入って、貸借の権利を設定しますので、トラブルの時も安全・安心です。

海草振興局管内の平成28年4月~平成29年2月の農地中間管理事業の実績は 91件の貸借が成立し、23.4haの農地引受配分となっています。

農地中間管理事業のイメージ



受賞おめでとうございます！

平成28年度は次の方が受賞されました。

【和歌山県農林水産業賞】

農林水産業の振興発展並びに農山漁村の活性化に貢献し、業績が特に優れ、ほかの模範となるべき個人及び団体の功績を表すものです。



深海 和子氏(海南市) 河鳶 保儀氏(和歌山市)

和海地方4Hクラブが全国3位

【全国農業青年クラブ連絡協議会会長賞】

日頃の活動における課題を解決するために実践したクラブ活動等について近畿ブロック代表として全国青年農業者会議で発表しました。

その結果、全国3位となる全国農業青年クラブ協議会会長賞を受賞しました。



和海地方4Hクラブ連絡協議会
発表者 小杉 耕平氏(和歌山市)

「つや姫」と「にこまる」が 和歌山県水稻奨励品種に決定

平成29年3月「つや姫」と「にこまる」が
県奨励品種に決定しました。

「つや姫」

山形県農業総合研究センターで育成され2009年に山形県奨励品種に採用、同年2月に「つや姫」と命名された品種です。

特性は出穂期、成熟期は「キヌヒカリ」より2日程度遅い。栽培上の注意は和歌山県特別栽培農産物基準に準じて栽培することが必須です。

「にこまる」

九州沖縄農業研究センターで育成され2005年に品種登録、同年に「にこまる」と命名された品種です。

特性は「ヒノヒカリ」より出穂期は3日程度、成熟期は5日程度遅い品種です。



表1 生育特性

品種名	移植期	出穂期	成熟期
つや姫	6月16日	8月12日	9月19日
キヌヒカリ	6月16日	8月10日	9月16日
にこまる	6月16日	8月28日	10月9日
ヒノヒカリ	6月16日	8月25日	10月4日

(県農業試験場 H22～26の平均)